

定時制高校生の社会性習得度チェックリストの開発①

—教員用チェックリストの妥当性、信頼性の検証—

○若林上総¹ 土居正城² 戸賀沢亮子³ 佐野和規⁴ 加藤哲文⁵

1. 国立特別支援教育総合研究所 2. 長野県飯田養護学校 3. 埼玉県立川越工業高校 4. 山梨県立教育センター 5. 上越教育大学
KEY WORDS: 定時制高校 社会性 チェックリスト

(問題と目的)

定時制高校には、特別支援教育を要する生徒がより多く在籍している(特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議高等学校ワーキング・グループ, 2009)。彼らの卒業後の社会的・職業的自立に向けて、モデル校ではソーシャルスキルトレーニング、社会人としての生活、自己理解、環境調整、援助要請といった内容が、指導で取り上げられている(文部科学省, 2012, 2013, 2014)。今後は、これらの取組で扱われる内容が整理され、定時制高等学校特有のニーズを踏まえた、実証的な指導の計画、実施、評価が行われることが期待される。

特に、評価について、高等学校段階の生徒の社会性を高める指導の効果を検証した研究を概観すると、既存の評価尺度を適用しているものが多い(池田ら, 2010; 石橋, 2012; 渡辺・原田, 2007)。また、小貫(2009)は、発達障害のある高校生にとっては卒業後の「一般社会」により比重を置いた技能の獲得を要するとし、より広い概念として「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」を「ライフスキル」として捉え直す必要性を指摘している。この知見に基づいて、チェックリストや指導プログラムの開発が行われているが(小貫, 2009 など)、いずれも標準化に向けた検討は行われておらず、客観的な評価という点では限界がある(旭出学園教育研究所, 2012)。そのため、定時制高等学校に在籍する生徒の実態に応じた尺度についてはより詳細な検討を要するといえる。

そこで本研究では、定時制高校に在籍する生徒の実態に応じた社会性の指導を計画、実施、評価に役立つ、指導の必要性のある行動を項目化し、その習得度のアセスメントや評価に役立てることのできるチェックリストの開発を目的に、定時制高校の教員を対象とした調査を実施した。

(方法)

先行研究(旭出学園教育研究所, 2012; 菊池, 1988; 庄司, 1991; 相川・藤田, 2005; 小貫, 2009; 高齢・障害者雇用支援機構, 1987)より、項目を収集した。結果として、定通の生徒の卒業後の社会適応と関連する行動項目行動項目は、5つの中カテゴリ「職業適性」、「基本的労働習慣」「対人スキル」、「日常生活管理」、「心と健康の管理」に計141項目が属することが明らかとなった

その後、定時制高校生2クラス39名を対象に、各項目に記述された内容の習得度について、「十分備わっている」「備わっている」「あまり備わっていない」「まったく備わっていない」の4件法で答えてもらった。項目分析により、天井効果、床効果のあった項目、及びI-T分析の結果から、当てはまりの度合いの低い項目を削除した結果、チェックリストには67項目を採用した。

20XX年4月から7月には、東北、関東、甲信越地域にある定時制高校に研究協力を打診し、研究協力の了承を得た8校には7月～9月にチェックリスト、KISS-18(菊池, 1988)、CBCL-TRFの向社会性尺度を配付・回収した。

(結果)

330名の生徒を評価した回答を分析した。67の質問項目

を「職業適性(11項目)」、「基本的労働習慣(9項目)」、「対人スキル(32項目)」、「日常生活管理(9項目)」、「心と健康の管理(6項目)」の5つのカテゴリに分類したところ、 α 係数は、.89、.88、.95、.84、.77であった。カテゴリの合計得点からは、上図の因果モデルが示された。

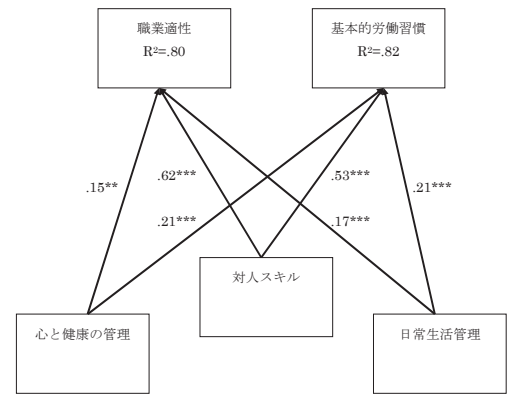


図 職業準備性に関する5要因間の関連

*** p<.001, ** p<.01
 $\chi^2=3.41$, GFI=.996, AGFI=.938, CFI=.999, RMSEA=.086
共分散と誤差項は省略した

は、.89、.88、.95、.84、.77であった。カテゴリの合計得点からは、上図の因果モデルが示された。

表 KISS-18の因子との相関

カテゴリ	KISS-18の因子		
	因子Ⅰ 「問題解決能力」	因子Ⅱ 「トラブルの対処」	因子Ⅲ 「コミュニケーション能力」
職業適性	.748**	.757**	.750**
基本的労働習慣	.782**	.778**	.668**
対人スキル	.823**	.779**	.750**
日常生活管理	.796**	.757**	.721**
心と健康の管理	.746**	.718**	.638**

**p<.01

各カテゴリの合計得点と KISS-18 の下位尺度の合計得点との間の相関係数は、上の表のとおりとなった。

表 各群のカテゴリ得点

カテゴリ	健常群(n=255)		臨床群(n=74)		t値
	mean	S. D.	mean	S. D.	
職業適性	29.92	6.33	22.59	5.34	9.06**
基本的労働習慣	25.08	5.01	18.59	4.13	10.18**
対人スキル	86.09	16.78	66.58	13.06	9.22**
日常生活管理	24.10	4.82	18.72	4.29	8.67**
心と健康の管理	16.33	3.29	12.28	2.81	9.59**

**p<.01

CBCL-TRF の下位尺度のうち向社会性の評定から生徒329名を健常群255名、臨床群74名に分け、t検定を行ったところ、全てのカテゴリで有意差があった。これに基づきROC分析を行った結果、適切なカットオフ値が示された。

(考察)

結果からは、開発されたチェックリストに一定の信頼性、妥当性があることが示唆された。また、因果モデルでは、「職業適性」、「社会的労働習慣」のR²乗値が.80を超えており、二つの要因は「心と健康の管理」、「対人スキル」、「日常生活管理」で大部分が説明された。実践上は、「心と健康の管理」、「対人スキル」、「日常生活管理」を高める指導が効果を及ぼすことが予測される。

(WAKABAYASHI Kazusa, DOI Masaki, TOGASAWA Ryoko, SANO Kazunori, KATO Tetsubumi)